中央大学大学院経済学研究科 News

税理士を目指す私達が
中央大学大学院経済学研究科を選んだ理由

2015年4月から税理士としての一歩を踏み出す2名の修了生に、進学先に中央大学大学院経済学研究科を選んだ理由と、大学院での生活について聞いてみました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2014 年度　経済学研究科修了
島田征樹
（2015 年度より税理士法人トーマツに就職）

私は、税理士試験税法科目一部免除に必要な論文指導を受けるために本大学院に進学することを決めました。学部は他大学に属していたので、進学する大学院を検討するにあたっては、本大学院はもちろんのこと、首都圏にある他の大学院を調べました。そして、最終的に本大学院の指導環境に魅力を感じ入学することを決めました。その具体的な魅力として、財政学、租税法学を専門とする、教授をはじめとした多くの研究者が在籍しており、租税法に関する論文を指導して頂ける環境が整っていることが挙げられます。また、本大学院の入学説明会に参加した際、在校生の方から聞いた、多くの税理士志望の仲間がいるという点にも惹かれました。同じ志を持った学生が多くいるということは、将来的に横のつながりを築くことができます。このように、本大学院は税理士を目指す人にとって、他の大学院と比較してなじみ易い環境が整っていると思います。税理士志望で大学院への進学を検討する方は、ぜひ本大学院の入学説明会等に参加されてみてはいかがでしょうか。

次に、私の大学院生活についてですが、やはり税理士試験と大学院の勉強との両立には多少苦労しました。大学院では、履修している科目のレジュメ作成や論文作成のための研究をしなければなりません。これらと並行して税理士試験の勉強をしなければいけないので、スケジュールを組むなどして、効率的に時間を使うことが重要であると思います。この点、本大学院では各自に学生共同研究室にある机と本棚が割り当てられるため、自分の好きなときにいつでも勉強でき、忙しい大学院生活を円滑に過ごすにあたって非常に大きな助けとなりました。また先述したように、本大学院では税理士試験に挑戦している仲間が多数いるので、勉強方法やわからない点を互いに教え合い切磋琢磨することでモチベーションを保つことができます。さらに商学研究科にも税理士志望の学生がいるので、研究科の垣根を超えたつながりがあることが本大学院の強みの一つであるいえます。ちなみに、私は一人暮らしをしていたのですが、忙しい大学院生活において大学の食堂が毎日遅い時間まで営業していたことに助けられました。したがって、勉強以外の生活面でも過ごしやすい環境が整っていると思います。

[3/25 大学院修士学位授与式にて
指導教授　篠原先生（中央）と]

修士論文作成のための研究は、各自が計画的に進めなければなりません。この点、指導教授は適宜アドバイスを下さいますが、その前提として各自で研究を行い、自分なりの考えをしっかりと持つことが不可欠です。そのために、早めに論文のテーマを決定し、幾つもの視点から何度も構成を検討することが重要です。したがって、私はある程度の根気強さをもって論文作成と向き合いました。そして、本大学院はそのための環境や体制も整備されています。特に、大学図書館には多数の文献や資料が豊富に所蔵されており、研究を進めるにあたって不自由に感じることは全くありませんでした。また、先述したように本大学院には税法科目一部免除のための論文作成に対応した指導をして下さる先生方が多くいらっしゃるので、論文に多様な視点からのアドバイスを反映することができます。この点は、中身のある論文に仕上げるにあたって非常に有難いことであると思います。結果的に私は論文作成を通じて、論文のテーマやオリジナリティを決定する際には、なるべく多くの先行研究に目を通し、自分ができる範囲で国税審議会に提出するための要件を満たす方向性を早めに決めることが最も重要であると感じました。

以上が、私の本大学院での経験から得た感想ですが、要約すると、本大学院は税理士を目指す学生にとって非常に恵まれた環境を提供してくれるので、あとは各自のやる気さえあれば非常に有意義な学生生活を過ごすことができるということがいえます。税理士という仕事は社会的責任が大きい専門職であるため、その分資格を手にすることは容易ではありませんが、本大学院は目標の達成に十分な手助けとなってくれます。

最後になりましたが、本文が多くの税理士を目指す方々に少しでも力になれば幸いです。長文を読んで頂きありがとうございました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2014 年度　経済学研究科修了
蛭川 皓平
（2015 年度より都内税理士事務所に就職）

中央大学大学院経済学研究科に入学した経緯

私は税理士を志望して中央大学大学院の経済学研究科に入学しました。経済学研究科を選んだ理由は、財政学の立場から租税法の論文を書くことができるためです。

大学院に進んで税理士を目指す場合には法学研究科で税法解釈の論文を書くのが一般的かもしれませんが、私は学部では経営学を学んでいたということもあり、経済学研究科で経済学の観点から租税法にアプローチしていくほうがこれまでの知識を活かして取り組めると考えました。

また税理士を目指した研究を支援してくれるかどうかは大学院や研究科によると思われますが、中央大学大学院経済学研究科に関してはパンフレットの情報や大学院進学相談会での話などから税理士を目指す学生の指導に対応していることを明確に示していたため、他大学の出身ですが安心して受験することができました。

研究生活について

大学院での研究生活は想像以上に過酷でした。大学院というもの自体、入る前はどのようなことをする場所なのかあまりイメージがつかめず、修了に必要な単位数そのものはさほど多くないことから、比較的余裕を持って勉強をすることができるのかと勝手に考えていました。

蓋を開けてみると税理士試験の勉強をしながら講義の準備や論文の作成に忙しく追われる毎日で、平日はもちろん場合によっては土曜日や日曜日まで研究室にこもるという日々が続きました。朝から講義を受けて、講義が終わってから 8 時から 9 時くらいまで研究室で勉強をして、それでも講義での発表の準備が終わらないので帰りの電車に乗りながら参考文献を読んでいたことを思い出します。

特に大変だったのが入学初年度で、基礎知識が不足している中で多くの講義を履修し、それらの準備をしながら自分自身の修士論文のテーマを固めなくてはならないため、体力的にも精

神的にも厳しいものがありました。論文のテーマが固まらないうちは、果たして 2 年間で論文を書き上げることができるのだろうかと常に不安でした。

税理士を目指す以上は租税法に関する論文を書く必要がありますが、経済学研究科の論文として認められるためには単に租税法の論文というだけではなく経済学の観点を織り込まなければならないため、そのような分野に絞りつつ自分なりの新規性を持たせるテーマを見つけるというのは難しい作業で、先行研究を読み込んでアイデアを考えてはゼミで発表してアドバイスをもらい、また修正してはアドバイスをもらい、という繰り返しでした。指導教授はこちらの状況を理解してくれているため、常に「租税法の経済分析」として論文を完成させるためにはどうすればいいかという観点から研究について指摘をしてもらえ、非常に有り難いことだったと思っています。

講義に関しては、経済学研究科には税理士の仕事に直接関わるようなものは少ないため他の研究科の講義を受けて税法の知識を補充しました。特に商学研究科には税法の判例研究の講義や法人税法・消費税法など個別の税法の講義があり、これらの講義は将来の税理士業務に役立つであろうことはもちろん修士論文の執筆にとても有用だったため積極的に履修していました。他の研究科にも同じく税理士を目指す仲間がおり、そういった仲間と知り合いになれたことも心強かったです。

税理士試験と研究の両立

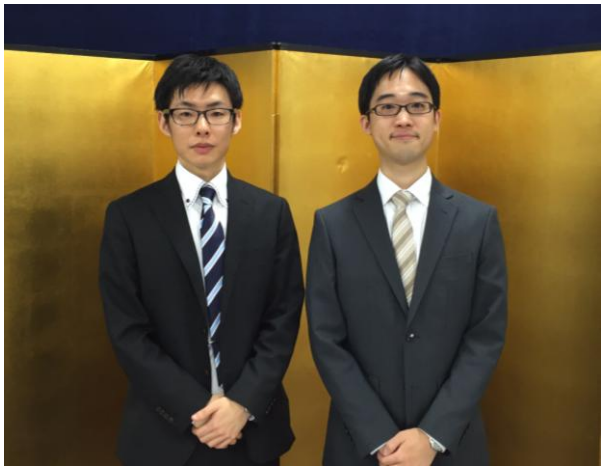
大学院の研究が忙しい分、税理士試験との両立は大変でした。しかし勉強に集中できる環境が整っているため、意外と勉強時間は確保できたように思います。大学院生の共同研究室にテキストや電卓などの勉強道具を置き、平日の講義後や土日に研究室で税理士試験の勉強をしました。自宅で勉強するよりも捗りますし、同じ研究室に受験仲間がいたため、お互いに刺激し合いながら勉強をすることができました。また、場合によっては税理士試験直前の時期には講義のスケジュールを調整してもらえることもありました。

大学院の環境や雰囲気

上に述べたように研究そのものはハードでしたが、それでも大学院生活のことを振り返ると楽しかったことばかり思い出します。それもこれも周囲の人々や環境に恵まれていたからだと思います。

自然に恵まれたキャンパス、何店舗もあるおいしい学食、蔵書の豊富な図書館など、環境の助けがあって気持ちよく研究に没頭することができました。

そして何より、熱心に指導をしてくれた先生方をはじめとして、同じ目標の下いつも楽しく一生懸命に研究をしていたゼミの同期や他研究科の仲間、拙い発表にもやさしくアドバイスをくれた先輩方、研究の合間のくだらない雑談にも嫌な顔をせずに付き合ってくれた後輩。様々な人のおかげで楽しく実りのある大学院生活が送れたと感じており、とても感謝しています。



[3/25 大学院修士学位授与式にて
島田さん（左）と蛭川さん（右）]